

アドインマスター参照照合プログラム  
for アシストパック Pro BHT-1500  
取扱説明書 第2版



2018年 1月 10日  
コンピュータ・アシスト株式会社

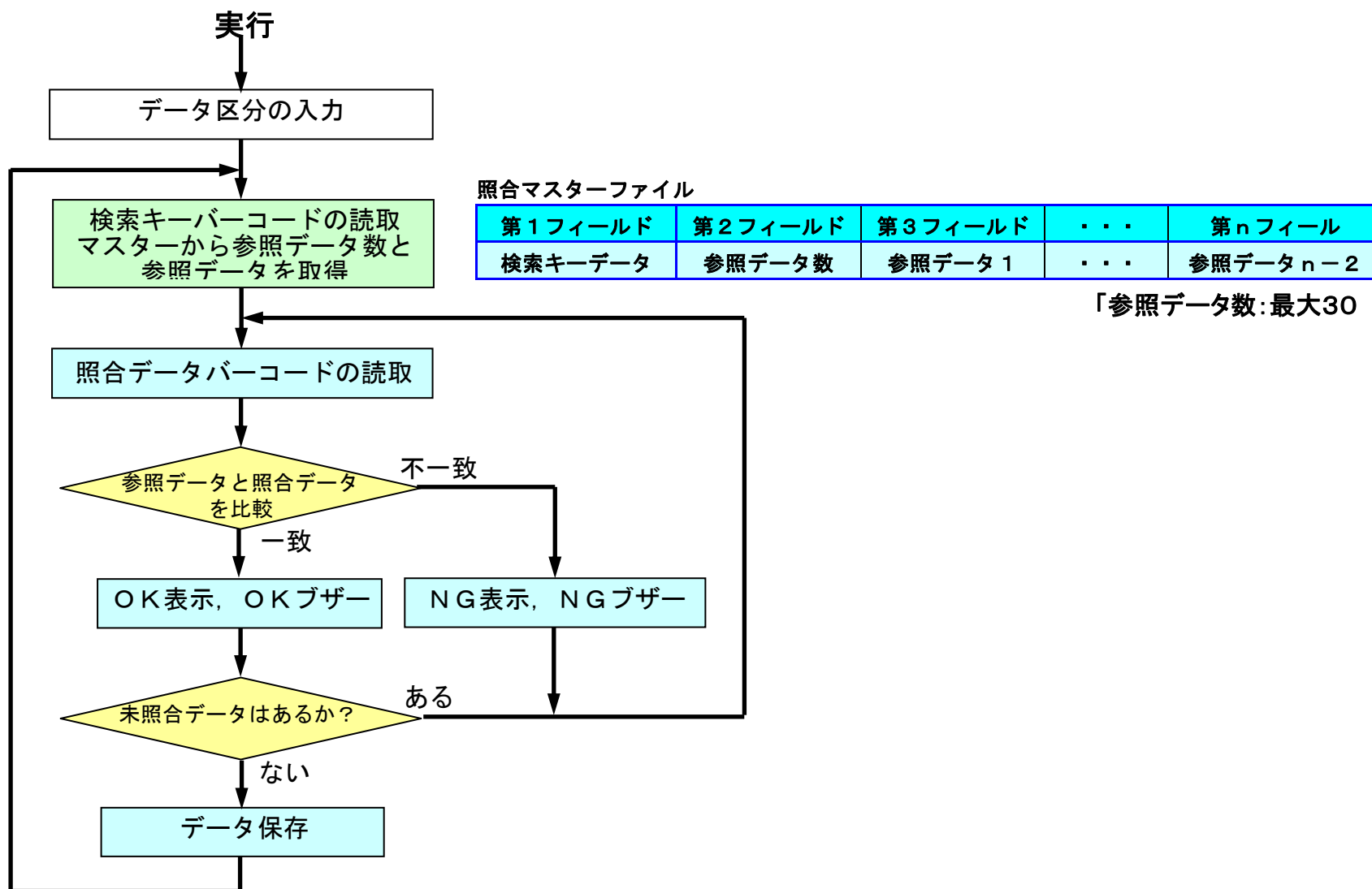


## 目次

1 機能概要 .....	1
2 動作設定 .....	2
2-1 データ区分 .....	3
2-1-1 バーコード読取設定 .....	4
2-1-2 マスター参照情報表示 .....	7
2-2 照合条件 .....	8
2-2-1 検索キー入力 .....	9
2-2-2 照合データ入力 .....	10
2-2-3 照合結果OK/NGブザー設定 .....	11
2-3 データ保存 .....	12
2-4 データ更新 .....	14
3 業務更新 .....	15
4 アドインプログラムダウンロード .....	16
5 アドインプログラム実行 .....	18
5-1 登録順照合 .....	19
5-2 順不同照合 .....	20
5-3 照合マスター作成 .....	21
5-4 照合マスター編集 .....	22
5-5 入力/データ処理エラー表示 .....	23
5-6 保存データ送信 .....	24

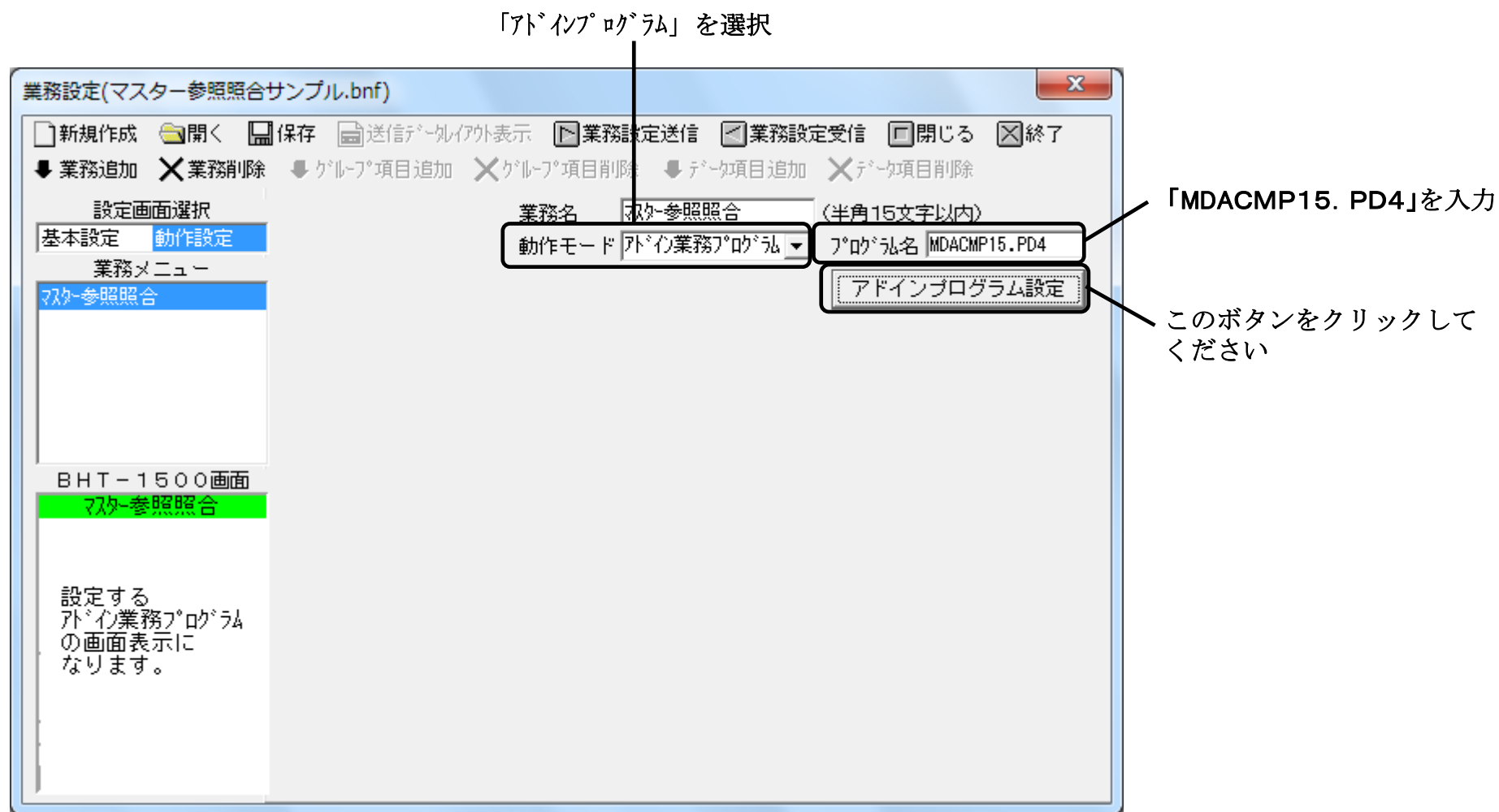
## 1 機能概要

検索キーバーコードを読み取り、マスターファイルから参照データ数と参照データを取得し、次に読み取った照合データと比較し、一致した場合はOK、不一致の場合はNGを表示して、設定条件に従ってデータを保存します。



## 2 動作設定

業務設定において、動作モードに「アドインプログラム」を選択し、プログラム名に「MDACMP15. PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。



## 2-1 データ区分

担当者コードなどのデータ区分は、最大3項目設定できます。使用する場合は、「データ区分」をクリックして、「データ区分項目数」を1～3に設定してください。

ここをクリック

「データ区分項目数(0～3)」を選択してください

マスターファイルを使用して情報を表示する場合はここをチェックして「マスターファイル」を設定します。

バーコード読取をしようする場合はクリックしてください

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7で表示), 日付(YYYY/MM/DD), 日付(YY/MM/DD), 日付(MM/DD), 時刻(HH:MM)から選択します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7で表示)のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。 入力範囲: 1～40
バーコード	[バーコード使用]をチェックして、[読取設定]ボタンをクリックすると設定画面を表示します。
マスター参照情報表示	[文字列表示マスターファイルを使用する]をチェックして、表示用マスターファイルを設定してください。 [マスターデータがない場合エラー]を設定すると、入力したデータがマスターファイルに登録されていないとエラーになります。

### 2-1-1 バーコード読取設定

バーコード読取設定ボタンをクリックすると、次の画面を表示します。

担当者 バーコード読取設定 (BHT-1500)

バーコード読取設定 設定A or 設定B or 設定C

設定A  
バーコード: Code39 読取最大 12桁 最小 10桁  
データ選択 3桁目から 6桁  
指定文字を削除しない

設定B  
バーコード: JAN 読取最大 99桁 最小 1桁  
データ選択 1桁目から 20桁  
指定文字を削除しない

設定C  
バーコード: JAN 読取最大 99桁 最小 1桁  
データ選択 1桁目から 20桁  
指定文字を削除しない

キャンセル 確定

バーコード読取設定を「設定A」, 「設定A or 設定B」, 「設定A or 設定B or 設定C」から選択してください

設定ボタンをクリック



バーコード読取設定A (BHT-1500)

バーコード読取A

バーコード種類 JAN  
読取桁数 最大 13 最小 1

NW7 スタート/ストップキャラクタ  
スタートキャラクタ指定 指定なし ストップキャラクタ指定 指定なし

☐ データから削除

チェックデジット (ITF/STF/NW7/Code39)  
☐ チェックデジット付 ☐ データから削除

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する  
チェックデータ位置 1桁  
チェックデータ  
チェック方法 一致しなかったら入力エラー

データ選択 1 桁目から 13

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

バーコード読取設定を「設定A or 設定B or 設定C」に設定した場合、  
「設定A」→「設定B」→「設定C」の順番でバーコードの読取検査をします。  
バーコード種類, 入力桁数, NW7 スタート/ストップキャラクタ, チェックデジット, データチェックの順番で検査して、エラーが発生すると、次の設定を検査します。  
次の設定がばい場合は、読取エラーになります。

設定項目	説明
バーコード種類	JAN, GTIN, ITF, STF, NW7, Code39, Code93, Code128/GS1-128, GS1DataBar から読取バーコードの種類を選択します。 GTIN を設定すると、JAN, ITF, Code128/GS1-128, GS1DataBar のバーコードが読み取り可能になります。読み取ったバーコードが JAN コードの場合は、14 桁の GTIN 商品コードに変換します。標準物流コード 14 桁の場合は、2 桁目から 12 桁のデータから 14 桁の GTIN 商品コードに変換します。標準物流コード 16 桁の場合は、4 桁目から 12 桁のデータから 14 桁の GTIN 商品コードに変換します。Code128/GS1-128 または GS1DataBar の先頭 2 桁 AI (アプリケーション識別子) が、01 または 02 の場合は、14 桁の GTIN 商品コードを取得します。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。 NW7 の場合はスタート/ストップ キャラクタを含めた桁数を設定します。 読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、読取エラーになります。
NW7 スタートキャラクタ指定	指定した NW7 スタートキャラクタと一致しない場合、読取エラーになります。
NW7 ストップ キャラクタ指定	指定した NW7 スタートキャラクタと一致しない場合、読取エラーになります。
NW7 スタート/ストップ キャラクタ削除	NW7 スタート/ストップ キャラクタを読取データから削除します。
ITF/STF/NW7/Code39 チェックデジット付	ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジット付バーコードを読取り、チェックデジットを検査します。
ITF/STF/NW7/Code39 チェックデジットをデータ から削除	チェックデジット (ITF/STF/NW7/Code39) をデータから削除します。
データフォーマット	データ区分の場合は固定長になります。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、検査するデータ位置とデータを設定します。検査方法は、「一致しなかったらエラー」, 「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	NW7 スタート/ストップ キャラクタ削除, チェックデジットをデータから削除の処理をしたバーコードデータからデータ項目のデータにするデータを選択します。 「99 桁目から 6 桁」と設定した場合は、「末尾から 6 桁」のデータを選択します。
指定文字を削除	データ選択したデータから、指定した半角文字を削除して項目データにします。



## ○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
GTIN	JAN, ITF, GS1 DataBar から取得する 14 桁の共通商品コード
書籍コード	先頭 97 の JAN-13 と先頭 19 の JAN-13 の 2 段バーコード読取 読み取ったデータは、26 桁のデータになります。 注) JAN/EAN/UPC を同時に指定しないでください。
雑誌コード	先頭 49 の JAN-13 + アドオンコード 5 桁の合計 18 桁のデータ 注) JAN/EAN/UPC を同時に指定しないでください。
ITF	チェックデジット (モジュラス 10) の設定可能
STF	チェックデジット (モジュラス 10) の設定可能
NW7	チェックデジット (モジュラス 16) の設定可能
Code 39	チェックデジット (モジュラス 43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6 種類の記号とスペース
Code 93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6 種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128 と Code 128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクспанデッド, エクспанデッドスタック





## 2-1-2 マスター参照情報表示

マスター参照情報表示ボタンをクリックすると、次の画面を表示します。

マスターファイルの入力項目を、**未入力**にして確定ボタンをクリックすると、マスター参照情報表示機能が**OFF** になります。

設定項目	説明
マスターファイル	マスター参照情報表示に使用するファイルを設定します。 先頭に D:¥ を付加すると、microSD カードのファイルを使用します。 <b>マスター参照情報表示を使用しない場合は空欄にしてください。</b>
検索キーフィールド No	入力データにより検索するフィールド No を設定します。 設定範囲 1 ～ 3 0
表示データフィールド No	情報表示データのフィールド No を設定します 設定範囲 1 ～ 3 0
検索データが存在しない場合エラー	設定すると、検索データがマスターファイルに存在しない場合、エラーにします。

### ■ ファイル名

ファイル名は、保存ファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

<ドライブ><大文字半角英数字 1 ～ 8 文字>、<拡張子 (大文字半角英数字 1 ～ 3 文字)>

ドライブに D:¥ を指定すると、microSD カードに保存したファイルを使用します。ドライブを指定しない場合は、H T 内部メモリに保存されたファイルを使用します。

(拡張子に PD 3, PD 4, EX 3, FN 3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMP を使用しないでください。)

フィールド情報ファイル (. FLD) は、下記の書式で作成してください。

<フィールド 1 桁数>、<フィールド 2 桁数>、<フィールド 3 桁数>、・・・、<フィールド N 桁数>

設定フィールド桁数範囲：1 ～ 3 0

## 2-2 照合条件

検索キー入力、照合データ入力、照合結果を設定します。

ここをクリック

マスター参照照合 設定(BHT-1500)

データ区分  
→ 照合条件  
データ保存  
キャンセル  
更新

検索キー入力  
項目名 検索キー バーコード読取設定  
キー入力桁数 最大 4 最小 1 データ表示 横倍  
照合マスターファイル MASTER.TXT 最大照合数 10

照合データ入力  
項目名 照合コード バーコード読取設定  
照合順番 登録順 マスター参照情報表示

照合結果  
OK表示時間 30 1/10秒 NG表示時間 30 1/10秒  
OK ブザー設定 NG ブザー設定

検索キー入力に関する設定をします。

照合データ入力に関する設定をします。

照合結果の表示時間とブザー動作を設定します。

## 2-2-1 検索キー入力

検索キー入力	
項目名 検索キー	バーコード読取設定
キー入力桁数 最大 4 最小 1	データ表示 横倍
照合マスターファイル MASTER.TXT	最大照合数 10

### 1) 項目名

検索キー入力項目の表示文字列を入力します。

### 2) バーコード読取設定

検索キー入力項目におけるバーコード読取設定画面を開きます。

### 3) キー入力桁数 最大／最小

検索キーデータにおけるキー入力桁数の最大／最小（1～99）を設定します。範囲外の入力は、入力エラーになります。

### 4) データ表示

入力データの標準表示、横倍表示を設定します。

### 5) 照合マスターファイル

照合に使用するマスターファイルを設定します。

#### ●照合ファイルのフィールド構成

第1フィールド	第2フィールド	第3フィールド	第4フィールド	・・・	第nフィールド
検索キーデータ	参照データ数	参照データ1	参照データ2	・・・	参照データn-2

参照データ数は、1～30の範囲内で設定します。参照データ数の最大に合わせてフィールド構成して作成してください。  
参照データ数が最大5の場合は、検索キーデータと参照データ数のフィールドを加えた合計7フィールドのマスターファイルを作成します。

#### □ファイル作成例

##### a) 参照データ数が全て5の場合

<検索キー><5><参照データ1><参照データ2><参照データ3><参照データ4><参照データ5>

##### b) 参照データ数が2, 3と4がある場合

<検索キー><3><参照データ1><参照データ2><スペース><スペース>

<検索キー><3><参照データ1><参照データ2><参照データ3><スペース>

<検索キー><4><参照データ1><参照データ2><参照データ3><参照データ4>

### 6) 最大照合数

照合に使用する、照合マスターファイルの参照データ数の最大を設定します。(1～30)

## 2-2-2 照合データ入力



- 1) 項目名  
照合データ入力項目の表示文字列を入力します。
- 2) バーコード読取設定  
照合データ入力項目におけるバーコード読取設定画面を開きます。  
(「2-1-1 バーコード読取設定」参照)
- 3) 照合順番  
照合順番が登録順（照合データ 1, 照合データ 2・・・の順番）または順不同を選択します。
- 4) マスター参照情報表示  
入力した照合データの情報をマスターファイルを使用して表示します。  
[マスター参照情報表示] ボタンをクリックして、マスターファイル情報を設定してください。  
(「2-1-2 マスター参照情報表示」参照)

## 2-2-3 照合結果OK/NGブザー設定

OK表示時間  1/10秒      NG表示時間  1/10秒

OK/NGを表示する時間を、1/10秒単位で0～99の数値を設定します。  
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

周波数  Hz      鳴動回数  回

鳴動時間  1/10秒      休止時間  1/10秒

動作デバイス

周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間  
を使用してブザー，バイブレータを動作  
させます。

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー，バイブレータ，ブザー+バイブレータから選択

## 2-3 データ保存

照合結果を保存して送信する場合は、[照合結果を保存する] をチェックして設定してください。

ここをクリック →

マスター参照照合 設定(BHT-1500)

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル名 A.TXT      保存フィールド数 11

保存条件 照合OK

フィールドNo	保存項目	データ選択
1	HtNo	4 桁 ▲
2	データ区分 1	1 桁目から 6 桁
3	検索入力分データ	1 桁目から 4 桁
4	照合データ入力パスワード 1	1 桁目から 13 桁
5	照合データ入力パスワード 2	1 桁目から 13 桁
6	照合データ入力パスワード 3	1 桁目から 13 桁
7	照合データ入力パスワード 4	1 桁目から 13 桁
8	照合データ入力パスワード 5	1 桁目から 2 桁
9	OK/NG	2 桁
10	日付(YYYY/MM/DD)	10 桁 ▼

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字>、<拡張子(大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を入力してください。(1～35)
保存条件	照合OK、照合NG、照合OK/NG から選択します。 照合OK： 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG： 照合NGになった場合にデータを保存(エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG： 照合OKと照合NGの場合にデータを保存

## ■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o、データ区分（1～3）、検索キーデータ、照合データ入力バーコード、OK／NG、日付、時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	H Tのサブメニューで設定したH t N o
データ区分 1～3	データ区分 1～3 を設定した場合のみ設定できます。
検索キーデータ	検索キーの入力データ
照合データ入力バーコード 1～3 0	照合データ 1～3 0において読み取ったバーコードデータ
OK／NG	“OK” or “NG” （2桁）を保存します。
日付（Y Y Y Y／M M／D D）	Y Y Y Y／M M／D D（10桁）を保存します。
日付（Y Y Y Y M M D D）	Y Y Y Y M M D D（8桁）を保存します。
時刻（H H：M M：S S）	H H：M M：S S（8桁）を保存します。
時刻（H H M M S S）	H H M M S S（6桁）を保存します。

データ区分、検索キー入力バーコード、照合データ入力バーコードの場合、保存するデータを先頭位置と桁数（保存桁数）を設定します。

2 データ区分 1 1 桁目から 16 桁

上記の場合、データ区分 1 の 1 桁目から 1 6 桁のデータを保存します。

「9 9 桁目から 1 6 桁」と設定した場合は、「末尾から 1 6 桁」のデータを保存します。

## 2-4 データ設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

マスター参照照合 設定(BHT-1500)

データ区分  
照合条件  
データ保存  
キャンセル

☒ 照合結果を保存す

保存ファイル名 A.TXT 保存フィールド数 11

保存条件 照合OK

フィールドNo 保存項目 データ選択

フィールドNo	保存項目	データ選択
1	HtNo	4桁 ▲
2	データ区分 1	1桁 桁目から 6桁
3	検索キー入力分データ	1桁 桁目から 4桁
4	照合データ入力パスワード 1	1桁 桁目から 13桁
5	照合データ入力パスワード 2	1桁 桁目から 13桁
6	照合データ入力パスワード 3	1桁 桁目から 13桁
7	照合データ入力パスワード 4	1桁 桁目から 13桁
8	照合データ入力パスワード 5	1桁 桁目から 2桁
9	OK/NG	2桁
10	日付(YYYY/MM/DD)	10桁 ▼

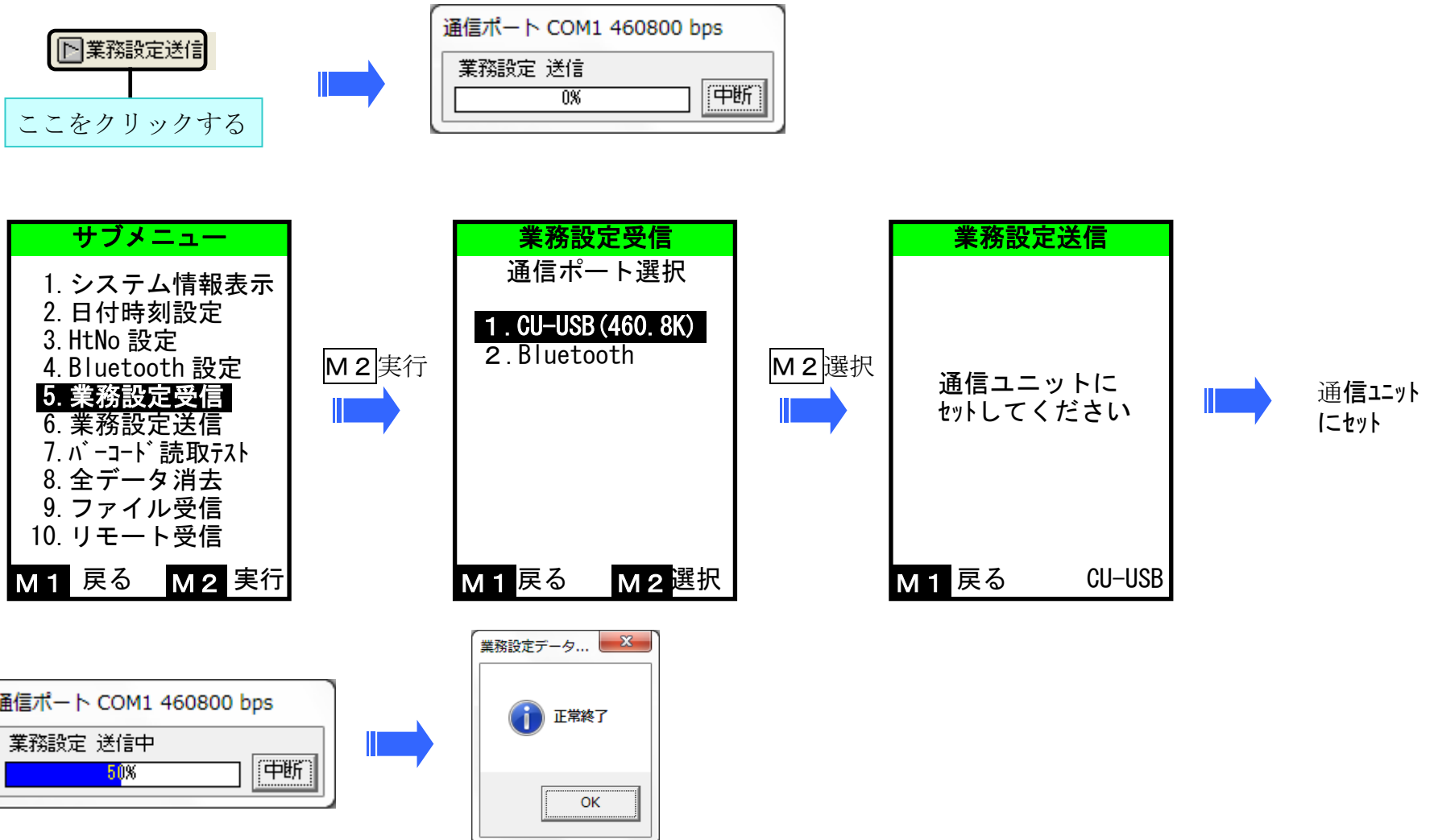
ここをクリック → 更新



### 3 業務更新

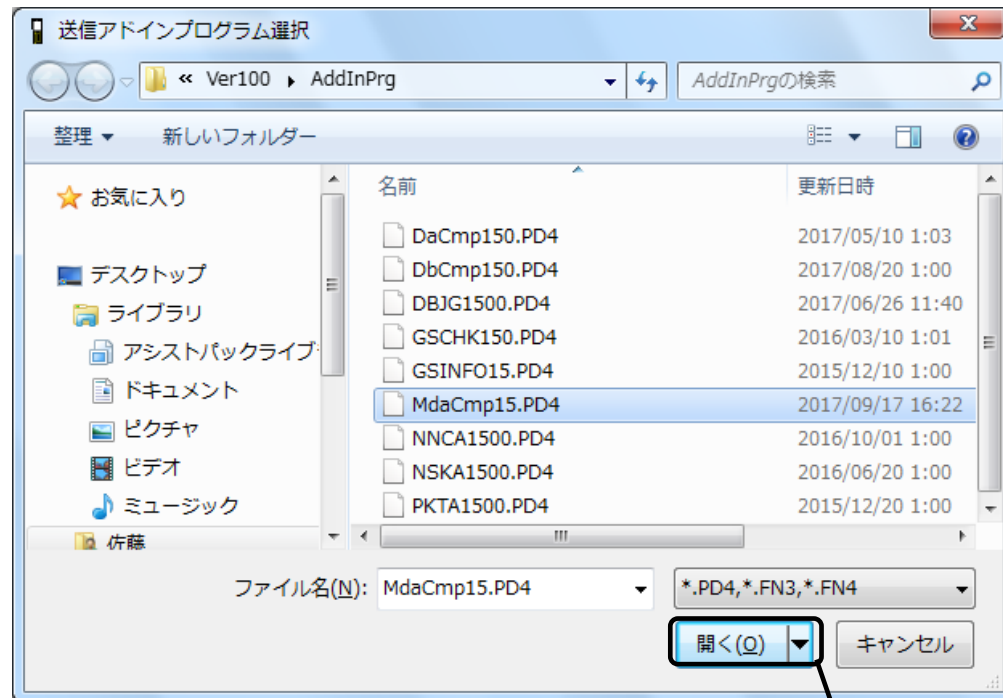
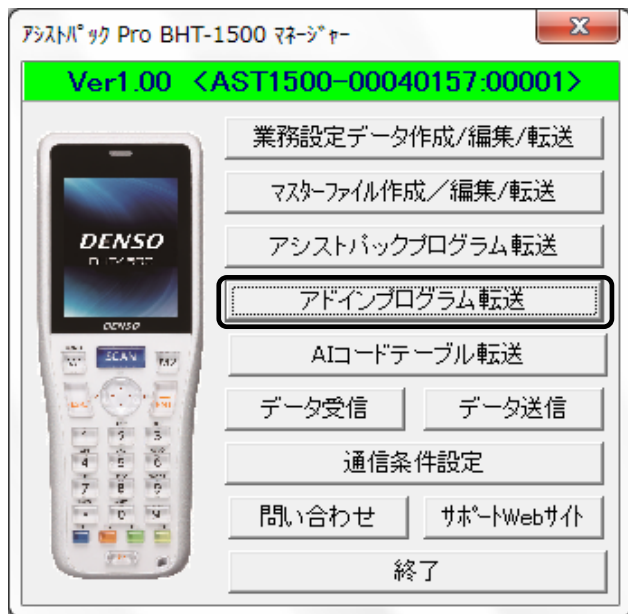
アドインマスター参照照合を設定した業務設定をBHT-1500に送信して更新します。

新規作成 開く 保存 送信データ一覧外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

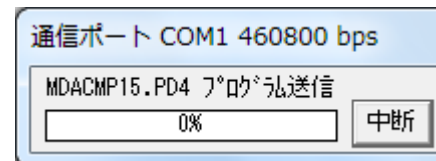


#### 4 アドインプログラムダウンロード

アドインマスター参照照合プログラム「MDACMP15.PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



MdaCmp15.PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

**M1** 戻る **M2** 実行

**M2** 実行



**ファイル受信**

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

**内部メモリへ受信**

**M1** 戻る **F4** SDメモリ **M2** 選択

**M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**内部メモリへ受信**

**M1** 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

MSERC150.PD4 送信中

59%

中断



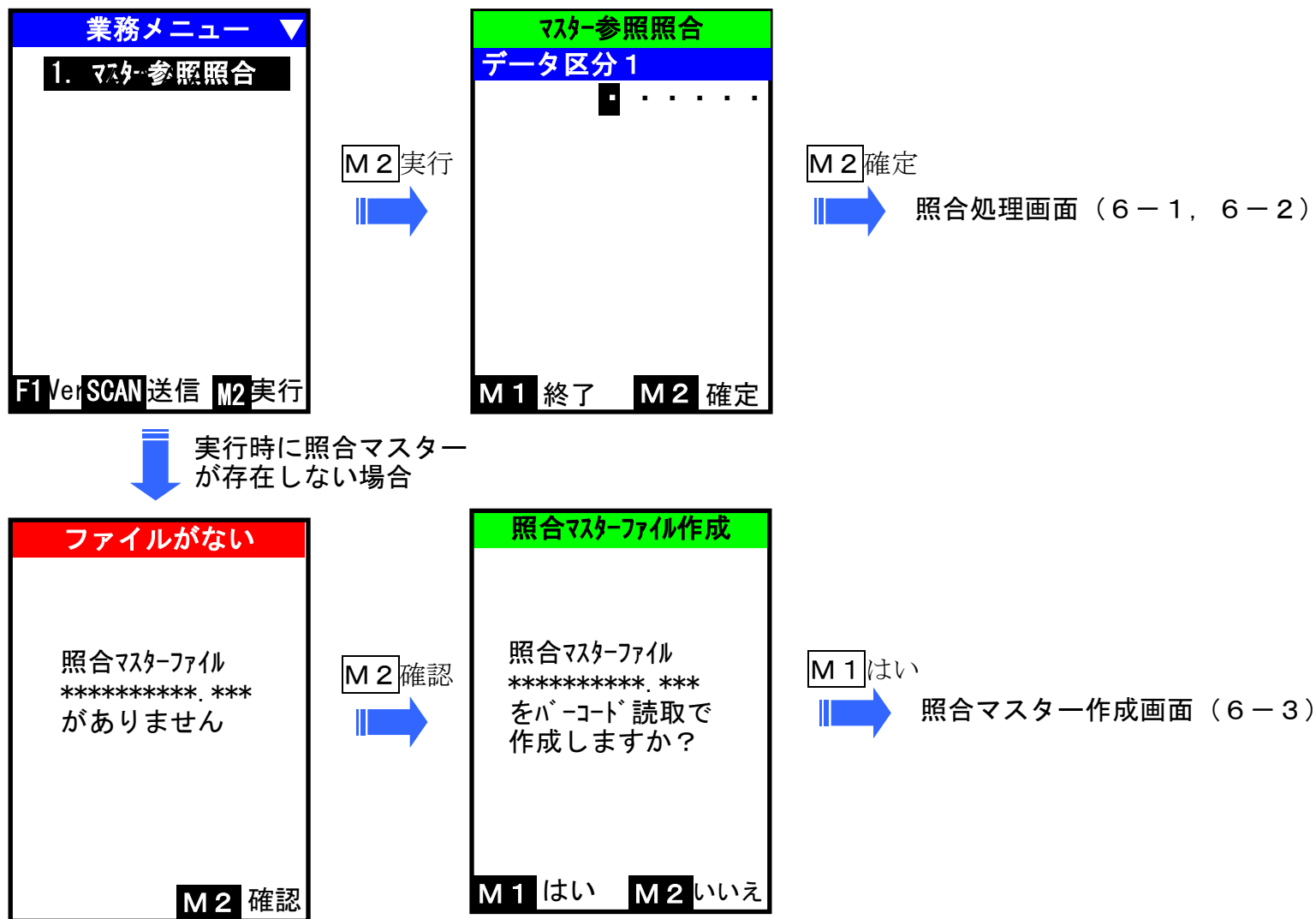
プログラム転送

**i** 正常終了

OK

## 5 アドインプログラム実行

アドインマスター参照照合プログラムを起動したときに、設定した照合マスターファイルが存在しない場合、照合バーコードを読み取って、照合マスターの作成が可能です。



## 5-1 登録順照合

照合データの登録順番にデータを表示し、これに従って照合します。

マスター参照照合	
検索キー	
■ . . .	
照合回数	10
M1 戻る	M2 確定

データ区分を設定しない場合は「終了」を表示します。

検索キー入力：  
キーとバーコードの入力可能です。

照合データ入力：バーコード入力のみ。

照合回数表示：  
検索キーにより参照した照合処理が終了した回数を表示します。

照合データ  
取得  
⇒  
⇐  
M1 戻る

マスター参照照合	
照合データ	
4912345678901	
マスターから取得した 照合データの情報表示 照合データと合わせて 10行まで表示します	
M1 取消	0 / 5

照合マスターから取得した  
照合データを表示、

照合OK  
⇒  
⇐  
次の照合

マスター参照照合	
照合データ	
4912345678901	
入力した照合データの マスター参照情報表示	
OK	

照合NG ↓ ↑ タイマ- or キー  
入力

照合OK数 / 全照合データ数

最後の  
照合OK

マスター参照照合	
照合データ	
4912345678901	
入力した照合データの マスター参照情報表示	
NG	

マスター参照照合	
照合データ	
4912345678901	
入力した照合データの マスター参照情報表示	
OK	

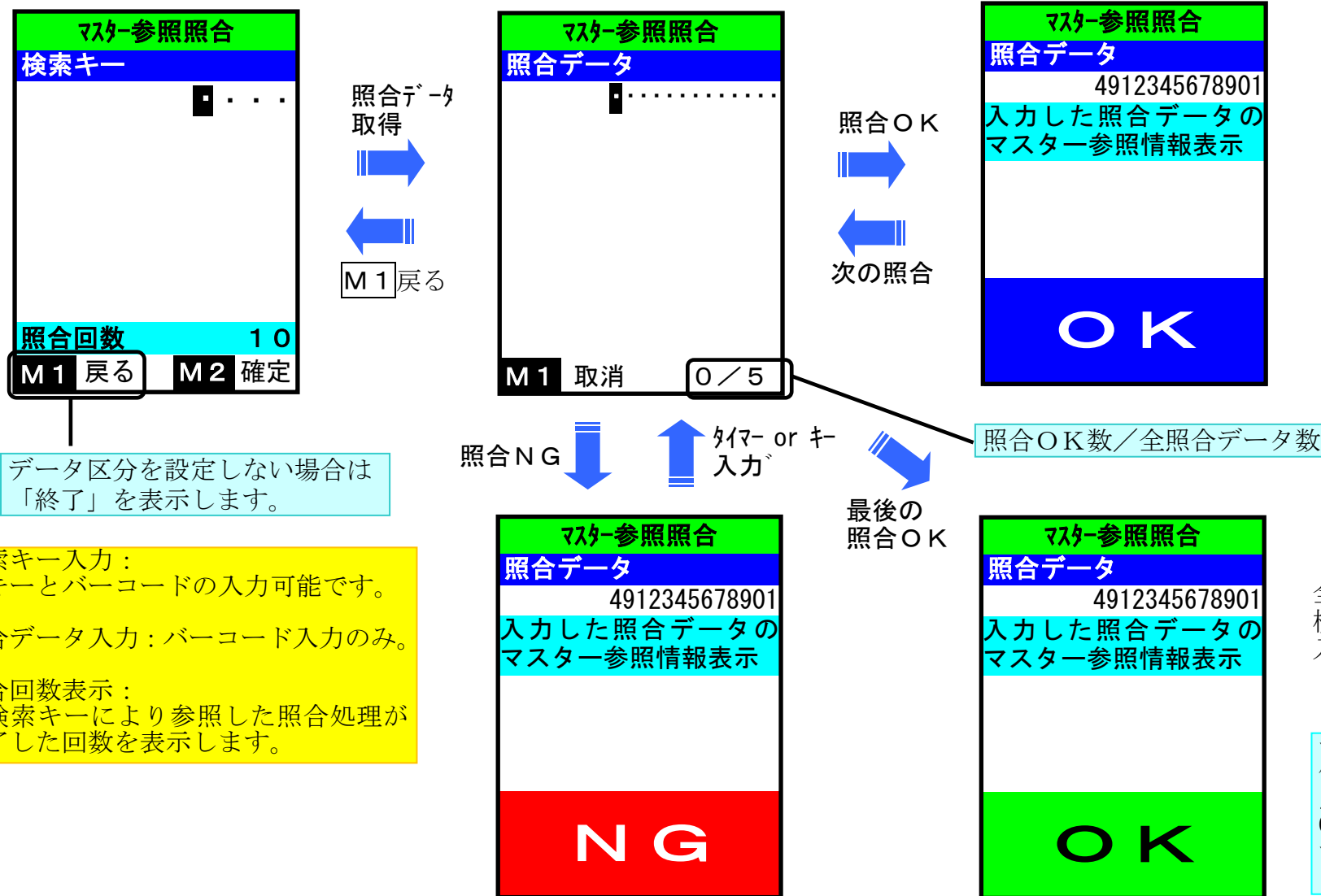
全照合を終了  
検索キーの  
入力画面へ



データ保存で  
保存条件が  
照合OK、照合  
OK/NGの場合に  
データを保存  
します。

## 5-2 順不同照合

照合データの登録順番に関わらず照合します。



### 5-3 照合マスター作成

**照合マスター作成**

検索キー

.....

登録件数 10 件

M1 終了 F3 再構成 M2 確定

検索キー  
入力

**照合マスター作成**

照合データ

.....

N / M NAX \*\*

M1 戻る F4 削除 M2 登録

データ入力

次の入力  
N=N+1

**照合マスター作成**

照合データ

4912345678901

入力した照合データの  
マスター参照情報表示

N / M NAX \*\*

M1 戻る M2 削除 M2 登録

照合順番／  
登録照合数

最大登録数

M1 終了

照合データを  
登録した場合

M2 登録

M1 はい

**照合マスター作成**

照合マスターの作成  
を保存しますか？

M1 はい M2 いいえ

**照合マスター作成**

照合データを登録  
しますか？

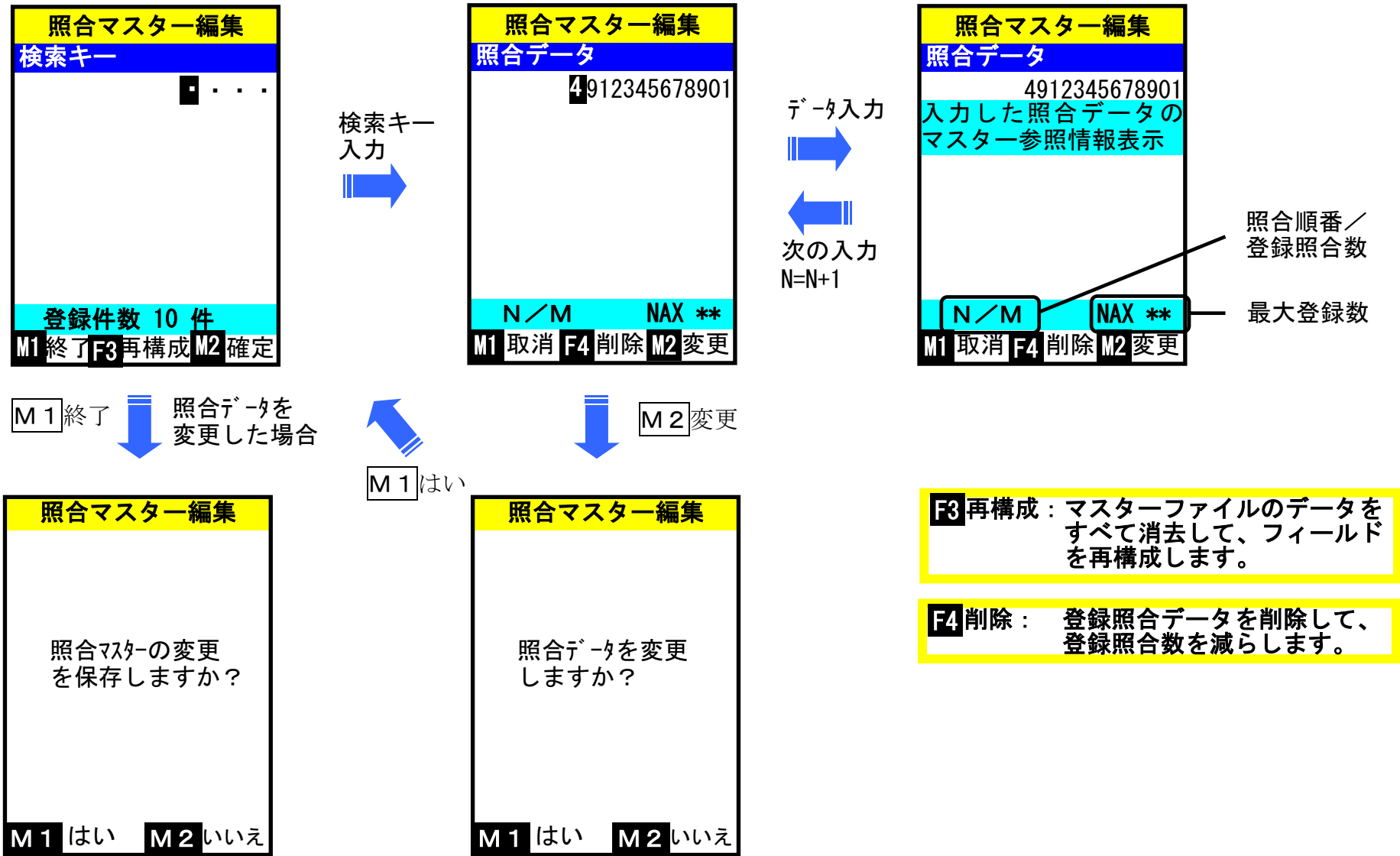
M1 はい M2 いいえ

**F3再構成**：マスターファイルのデータを  
すべて消去して、フィールド  
を再構成します。

**F4削除**：登録照合データを削除して、  
登録照合数を減らします。

# 5-4 照合マスター編集

照合マスターを編集する場合は、照合処理の検索キー入力において **F3** キーを押します。





## 5-5 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー表示	内容
未入力エラー	未入力において入力確定した
入力文字数エラー	設定した最大入力桁数を超えるか、最小入力桁数未満のデータ入力において、入力確定した
入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った
入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した (例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力)
バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数を読み取った
NW7 スタートキャラクタエラー	NW7 スタートキャラクタが設定したキャラクタと一致しない
NW7 ストップキャラクタエラー	NW7 ストップキャラクタが設定したキャラクタと一致しない
チェックデジットエラー	チェックデジット付を設定した場合、ITF, STF, NW7, Code 3 9 のバーコード読取において、チェックデジットを検査のエラー
データ検査エラー	設定したデータ検査においてエラー発生
バーコードデータエラー	フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR 記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない
マスターデータがない	マスターファイルに登録データがない
検索キーデータ未登録	検索キーデータがマスターに登録されていない
照合データ数異常	照合マスターに登録された照合データ数が異常
処理エラー	上記以外のエラー

データ保存設定の場合 ト記のエラーが発生した場合にデータを保存しません。



## 5-6 保存データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して **SCAN** キーを押します。

業務メニュー ▼

▶ 1. マスター参照照合

F1 Ver SCAN 送信 M2 実行



マスター参照照合>送信

通信ユニットに  
セットしてください

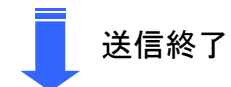
M 1 戻る CU-USB



マスター参照照合>送信

送信中  
00001

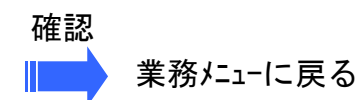
M 1 中断 CU-USB



マスター参照照合>送信

送信終了

M 2 確認



未送信の保存データがあると  
業務メニューに▶を表示します。